

地域とともにある
学校づくり

えべつ型コミュニティ・スクール
えべつCS通信
江別市教育委員会 教育部 総務課



道教委主催の研修会(CS協議会)に参加

本道におけるCSの導入促進と効果的な運用及び地域との連携・協働体制の確立に資することを目的に、道教委の主催で、CS（コミュニティ・スクール）協議会（道央ブロック）が、9月12日(火)に、北海道第二水産ビルを会場に行われました。石狩、空知、後志管内などの各地域から市町村教委の職員及び小中学校の教職員約100名の参加があり、本市からも、市教委担当者1名が研鑽してきました。

道教委義務教育課針ヶ谷主幹の説明の後、文科省CSマイスターである宮城県石巻市蛇田中の今泉校長から「コミュニティ・スクールのめざすもの“地域とともにある学校”」と題して講話がありました。講話では、CSの概要や導入状況、東京都三鷹市をはじめとした取り組み事例が紹介されました。

そのほか、三笠市教委、北広島市西部中、ニセコ町教委から、それぞれの地域・学校の実践発表が行われました。その後、参加者によるグループ討議が行われ、最後に中田北海道CSアドバイザーから、まとめとして、助言がありました。



今泉CSマイスターの講話



丸山北広島市西部中教頭の実践発表

☆☆☆当日発表された北広島市西部中の事例紹介☆☆☆

最近の取り組みとして、小中連携～地域とともに「CS防災訓練」が紹介されました。その内容を、西部中のホームページから転載します。

西部小6年生・西部中3年生 CS防災訓練に臨む（西部CSだより第4号より）

7月20日(土)に、西部中3年生と西部小6年生が合同で、CS防災訓練に臨みました。(中略)「災害発生時に、地域の一員として共助の精神を育む」ことを目的に、以下の訓練に取り組みました。

①傷病者搬送訓練 身近にある物を使って、安全に傷病者を搬送することを目的に、テントの支柱に毛布や衣服を巻き付けて担架をつくったり、椅子に傷病者を座らせたりして、搬送リレーに取り組みました。

②パケツリレー 火災発生時に、速く安全に水を届けるための方法を学ぶことを目的に、列をつかってペットボトルに入れた水をリレーしたり、何度も往復して水を運んだりしました。

「えべつ型CS」地域とともにある学校づくり【実践例紹介】

江別市の伝統（教育のまち：オール江別で子どもを育てる）を基盤として、学校・家庭・地域が連携・協力して子どもを育てる持続可能な仕組みを持った学校づくりを行う「えべつ型コミュニティ・スクール」がスタートして、半年が経過しました。今号から、その実践例を紹介していきます。

文京台小 地域ふれあい交流まつり

《地域・保護者からの支援》

（自治会、民生委員、PTA、おやじの会、学生ボランティアの協力）

これまで別な日に実施していた「芸術鑑賞会」と「ふれあいまつり」を同日開催し、児童と保護者だけでなく地域の方々にも参加していただき、子ども達と地域のふれあいが一層強まりました。



主催は、PTAの実行委員会で、文京台小コミュニティ・スクールが協力という形で8月26日(土)に行われました。学校運営委員会による熟議を経て、ふれあいまつりの豚汁の作成と販売を地域(3自治会)の方と民生委員にお願いしました。学生ボランティアにも、ゲームコーナーの企画と運営、駐車場の誘導と整理、おやじの会による焼きそば作成の手伝いを行っていただきました。

その他のバザーは、各学年ごとのPTAが担当し、子ども達にとって、楽しい一日となりました。

この様子は、地域の文教クラブの会報401号にも掲載されました。そこには、「『児童生徒のために』を第一義に考え、地域とともにある学校をめざすうえで、今回の『地域ふれあい交流まつり』はうってつけの企画であり、参加できたことに感謝しています。」と記載していただきました。

学校と3自治会及び民生委員合同の反省会では、「地域の学校に協力できた。」「3自治会共同で作業ができ、楽しかった。」などの評価をいただいたとのことです。

「用語」解説 ③ CSマイスター

コミュニティ・スクール推進員のことで、文科省では、コミュニティ・スクールの導入や実践経験を有する元校長や教育長、学校運営協議会会長等をCSマイスターとして、各地域の要望に応じて派遣するCSマイスター派遣制度があります。文科省発行のパンフレット「コミュニティ・スクール2017～地域とともにある学校づくりを目指して～」には、平成29年度のCSマイスター34名が紹介されています。